

令和7年度 小地域福祉活動セミナー

| | | 本所一丁目町会 |
|------------------------------------|------------------------------------|--|
| 団体概要 | | 町会防災部・民生委員・女性部・白寿会が一緒になり、民生委員の把握している支援が必要な方をブロックごとに分け、リーダー・サブリーダーを中心に対象者との関係構築を行っている。日常的に緩やかに関わり、イベント等がある際には、各ブロックから声かけを行ったり、対象者への関わりは各ブロックごとに行っている。 |
| 組織のベースについて (活動主体) | | 町会がベース 各ブロックの防災部員/女性部員を中心とし、対象者の人数によって活動者が各ブロックに居る。気にかかる方が居れば、代表の荒木田民生に情報が上がるような組織になっている。 対象者は町会員以外もあり。 |
| 立ち上げ について | きっかけ | 震災や水害が頻発している状況等への危機感から、災害時における高齢者世帯や障害のある方等の“安否確認”や“避難支援”について、町会として2021年に本格的に取り組むこととした。 もともと民生委員がひとり200人程度の方を担当していることに難しさを感じていた。一人で見るとはではなく地域全体で見ることができるよう組織化した。 |
| | 活動者の探し方 引き込み方 声のかけ方 | 民生、女性部、白寿会、防災部 町会を5ブロックに分け、防災部がサポートリーダー、女性部がサブリーダー、その下に対象者の人数に合わせてメンバーを組織 町会ないでは風通しが良く、話をしやすい雰囲気があるので、組織化にあたり声はかけやすかった |
| | 見守り対象者の選び方 | 民生委員の把握している高齢者や要援護者が中心 随時、新しく越してきた方や対象となった方は説明と聞き取りを行い、希望者は班に分けている |
| | 立ち上げてから活動までの流れ | 民生児童委員の受け持っている「高齢者」「要援護者」の名簿に基づき、「見守りたい！」の案内を送付し、サポート希望されるかを確認した。66名から回答。少ないと愕然とし、民生ふたりで1年かけて対象者に面談を行った。140名以上の方から希望あり、その方に民生だけではなく地域のサポートたいのメンバーが情報を共有することに承諾を得た。 |
| | 始めるまで難しかったこと | 一斉ポスティングでは回答率が悪かったため、皆さんに聞き取りを行ったこと |
| 活動 について | 見守りの方法工夫や特徴 | 名簿を作成し、日頃から声をかけていただいたり、餅つきなどのイベントの際にはそのブロックから案内をしていただいている。 新規の方がいらっしゃった場合にも、ブロックで対応できるようにしている。 亡くなられたり、変更があった際には都度荒木田さんに情報が集まっている。 年に1回、情報共有の場ももっている。 |
| | 活動者同士の情報共有 | 年に1回、活動者が集まり情報共有や、今後どのような対応をしたらよいか話し合っている。 今年度は、災害が発生した際に、町が暗いと悪い人に狙われてしまうと東日本大震災の被災地の話があり、ランタンを購入した。災害時に備えてブロック毎に必要な数を保有している。 |
| | 個人情報の取り扱い | 活動者が共有することについては、民生委員が対象者に確認を行い、了解を得ている。 |
| 活動が始まってからの 地域の変化・地域からの声 | | 町会員以外の方も含めて声をかけているので、町会に普段関わっていない人も地域との関わりが持てるようになってきている。 |
| その他 | | 東日本大震災の際に、地域の方が被災地へ行き、災害がおきた街ではどのようなことが大変かを聞いてきた。町の外から被災地を狙い人が来て、一人暮らしの高齢者や若い女性を狙う事件が発生していると聞き、今後この町で災害がおきた時に同じようなことが起きないようにしないといけないと感じた。そこでの話を活かし、民生委員だけが地域の人を気にかけていくのではなく、町全体で支えていく状況を作っていた。 |